

「豊かな海を守るには??」

海洋における地球環境問題と SDGs への取り組み

－ 持続可能な社会環境構築を目指して －

主催：金沢大学環日本海域環境研究センター

後援：国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット
日本海洋学会、北國新聞社

参加無料
要申込

10月23日(土) 13:30-15:30

場所：金沢大学サテライト・プラザ 3階集会室

(〒920-0913 金沢市西町3番丁16番地)

申込方法：参加希望の方は、下記申込フォーム(QRコードからも可)または076-234-6961
(環日本海域環境研究センター事務局)までお申込みください。
(締切:10月20日(水) *定員に達しない場合は当日受付を行います)
申込フォーム：<https://forms.gle/oowjPTZD9GXyxbG67>



13:30-13:35 開会挨拶 金沢大学 理事 山岸雅子

13:35-13:45 趣旨説明 金沢大学 環日本海域環境研究センター 教授 長尾誠也

【第1部】 海洋における地球環境問題

13:45-14:10 「地球温暖化の海洋への影響」

国立研究開発法人海洋研究開発機構 地球環境部門 上席研究員 原田尚美

14:10-14:35 「農耕地におけるマイクロプラスチックの発生と海域への移行」

石川県立大学 生物資源環境学部環境科学科 講師 勝見尚也

14:35-15:00 「有害有機物による海洋汚染の現状 ～日本海から北極海～」

金沢大学 環日本海域環境研究センター 助教 松中哲也

【第2部】 SDGsへの取り組み

15:00-15:25 「SDGsに向けた海洋研究者の取り組み」

東京海洋大学 学術研究院海洋環境科学部門 教授(日本海洋学会会長)
神田穰太

15:25-15:30 閉会挨拶 金沢大学 環日本海域環境研究センター 教授 長尾誠也

【お願い】

新型コロナウイルス予防対策を講じた上で講演を行います。状況により開催方法の変更、または中止の場合はHP上でお知らせいたしますので随時ご確認ください。当日会場ではマスク着用を必須とし、発熱等風邪症状のある方のご参加はお控えください。

【問合せ】 金沢大学 環日本海域環境研究センター (〒920-1192 金沢市角間町)

Tel:076-234-6961 / e-mail: kannihon.ka@gmail.com

<http://www.ki-net.kanazawa-u.ac.jp/symposium/lecture/>



「地球温暖化の海洋への影響」

地球温暖化という言葉から真っ先に連想されるのは「温度が上昇する」ということだろう。海洋においても地球温暖化による「海水温が上昇する」直接的な影響を受けてきており、表層だけではなく深層の海水温にまでその影響は及んでいる。また、これまでの研究から、地球温暖化を皮切りにした間接的とも言える様々な影響もあることがわかってきた。講演では、この間接的影響の事例や数値計算による将来の海洋の様子などを紹介するとともに、地球温暖化に対して私たちに何ができるか考えるきっかけを提供したい。



国立研究開発法人海洋研究開発機構
地球環境部門
上席研究員 原田尚美

「農耕地におけるマイクロプラスチックの発生と海域への移行」

海洋プラスチックごみは SDGs にも取り上げられ、プラスチック使用量の削減が世界的な潮流となっている。それらの中でも直径 5mm 以下のプラスチック片はマイクロプラスチックと呼ばれ、生態系やヒトの健康への悪影響が懸念されている。海洋マイクロプラスチックの発生源の多くは陸域にあるため、汚染拡大を防ぐためには各発生源への対策が重要である。本講演ではマイクロプラスチックの発生源の一つとなっている農耕地に着目し、農耕地からの流出特性や海域への移行挙動について紹介する。



石川県立大学
生物資源環境学部 環境科学科
講師 勝見尚也

「有害有機物による海洋汚染の現状～日本海から北極海～」

東アジア諸国の経済産業発展に伴って、周辺海域では発がん性有機物による海洋汚染が進行している。継続的な汚染調査の結果、日本海の隠岐島、能登半島（九十九湾）、および佐渡島の周辺において、夏季に東シナ海からの海水が対馬海流を介して運ばれることによって、有害有機物の濃度が高くなることが分かった。海洋観測によって明らかになった日本周辺海域から北極海にわたる有害有機物の汚染状況について紹介する。



金沢大学
環日本海域環境研究センター
助教 松中哲也

「SDGs に向けた海洋研究者の取り組み」

海洋は地球表面の 71% を占め、地球環境の変動を左右すると同時に、広大な領域とその資源は人類の未来に大きな可能性をもたらす。海洋の環境保全と持続可能な利用は、SDGs 全体の中でも極めて重要な位置を占めている。国連が 2021 年からの「持続可能な開発のための海洋科学の 10 年」を定めたのも、まさにその理由からである。SDGs 達成に向けて、海洋をめぐる科学や研究者の果たす役割、取り組みなどについて紹介する。



東京海洋大学 学術研究院
海洋環境科学部門 教授
(日本海洋学会会長) 神田穂太

会場までのアクセス

金沢大学サテライト・プラザ
〒920-0913 金沢市西町三番丁16番地
金沢市西町教育研修館内
Tel:076-232-5343

交通案内

- ・バス（北陸鉄道）[JR金沢駅より約5分] → 武蔵ヶ辻で下車後、徒歩 [約5分] (上堤町信号から尾崎神社へ進み、左側)
- ・台数限定で会場駐車場が利用できます。(要問合せ:076-234-6961まで)